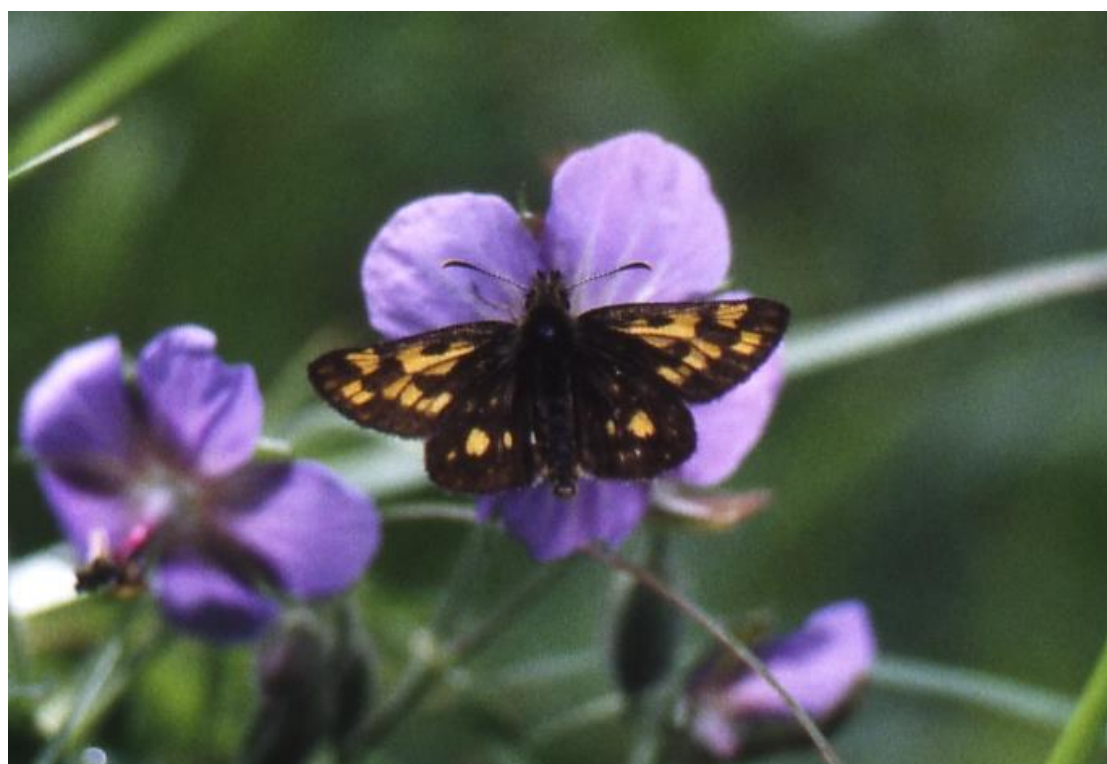


山梨県有林における 代表的な希少チョウ類



山梨県森林総合研究所

2019年4月版

はじめに

- 山梨県有林は、第3次県有林管理計画（平成28年度～平成37年度）に基づき管理を行っています。また、FSCの原則と規準に沿ったグローバルスタンダード（世界標準）の視点から持続可能な森林経営をさらに推進していくために、FSC森林管理認証を取得しています。FSC森林管理認証の大きなテーマの一つとして、希少種の保全も含めた環境に配慮した森林管理が求められています。
- 本資料では、主に山梨県有林（一部県有林以外も含む）に生育する希少チョウ類の特徴を紹介しています。今後の業務の参考になれば幸いです。
- 今後、内容の充実と掲載種の追加を随時行って参ります。
- 本資料の作成にあたり、ご多忙の中ご監修いただいた山梨県富士山科学研究所の北原正彦氏に厚くお礼申し上げます。
- 写真撮影
北原正彦・荒川史子・廣瀬満・指村奈穂子・佐々木政喜・長池卓男
- 資料提供
大澤正嗣
- 参考・引用文献
2005山梨県レッドデータブック（山梨県）
2018山梨県レッドデータブック（山梨県）
日本産蝶類標準図鑑（学習研究社）
原色蝶類検索図鑑（北隆館）
フィールドガイド日本のチョウ（日本チョウ類保全協会）
- 用語解説
開張（かいちょう）：前翅の後縁が一直線になるような形に翅を左右に広げたとき、両方の翅の先端から先端までの長さ。
前翅長（ぜんしちょう）：一方の前翅の基部から先端までの長さ。

（本資料は、「持続可能な生態的森林管理における希少種管理支援ツールの開発（平成25-29年度試験研究課題）」の一部として作成されました。）

表紙：タカネキマダラセセリ（撮影：北原正彦）

希少動植物リスト(県有林調査対象種) 掲載種	ページ
アカセセリ	1
カラスシジミ	2
ギフチョウ	3
キマダラモドキ	4
クモマツマキチョウ ハヶ岳・南アルプス亜種	5
クロシジミ	6
コヒョウモンモドキ	7
ゴマシジミ 関東・中部亜種	8
スジグロチャバネセセリ 名義タイプ亜種	9
タカネキマダラセセリ 赤石山脈亜種	10
チャマダラセセリ	11
ツマグロキチョウ	12
ヒメシロチョウ	13
ホシチャバネセセリ	14
ミヤマシジミ	15
ミヤマシロチョウ	16

注目すべき種(県有林調査対象種外)	ページ
オオイチモンジ	17
オオチャバネセセリ	18
オオムラサキ	19
クロヒカゲモドキ	20
ヒョウモンモドキ	21

アカセセリ

1

絶滅危惧ランク

国：絶滅危惧 I B類

山梨県：絶滅危惧 I B類

県内での主な分布
(かつての確認場所含む)

ハヶ岳、秩父山塊、御坂山地、富士山麓
の標高1,000m前後

主な特徴

開張30mm程でメスの方がやや大型。雄の地色は赤みの強い茶褐色で、前翅中室下部に黒色光沢の性標がある。雌の地色は暗茶褐色で前後翅に黄斑がある。

主な生息環境

高原地帯の開けた草原、疎林周辺や林間の草原。



【食草】 ヒカゲスゲ

【蜜源】 カセンソウ



ヒメジョオン



コウリンカ



カラスシジミ

絶滅危惧ランク	国： -	山梨県：絶滅危惧 I B類
県内での主な分布 (かつての確認場所含む)	都留市、大月市、鳴沢村、旧芦川村、旧須玉町、旧長坂町	
主な特徴	開張30mm前後。雌の方がやや大型。雌雄とも地色は暗褐色で、雄は前翅中室外端に半円形の性標がある。	
主な生息環境	主な食樹ハルニレの分布と一致。日当たりの良い溪谷や林縁などの花に集まる。	



【食樹】
ハルニレ
オヒョウ
クロツバラ



【蜜源】 シシウド

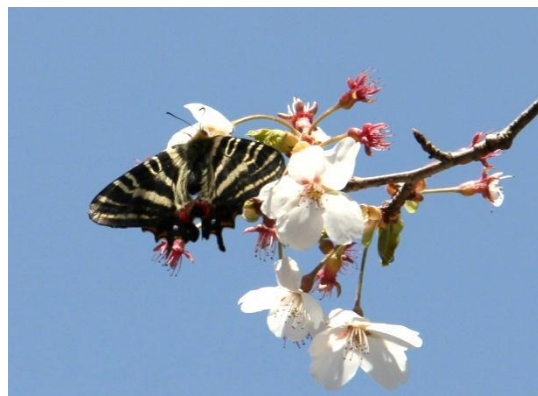
ヒヨドリバナ

ヒメジョオン



ギフチョウ

絶滅危惧ランク	国：絶滅危惧Ⅱ類	山梨県：絶滅危惧ⅠA類
県内での主な分布 (かつての確認場所含む)	富士川水系地域、本栖湖北岸	
主な特徴	開張50～60mm。黄色地に黒のだんだら模様。後翅亜外縁から外縁に赤、青、橙色の美しい斑紋を装う。	
主な生息環境	里山のような林床の明るい、植生豊かな落葉広葉樹林。ある程度日射しが入るスギ、ヒノキ、アカマツ等の針葉樹林の林縁、林内にも生息。	



【食草】カンアオイ属 (フタバアオイ・ガギガタアオイ・ランヨウアオイ)



フタバアオイ



【蜜源】カタクリ

スミレ類



ミヤマスミレ

キマダラモドキ

絶滅危惧ランク	国：準絶滅危惧	山梨県：絶滅危惧Ⅱ類
県内での主な分布 (かつての確認場所含む)	富士山麓、塩山市、都留市、南巨摩、中巨摩、北巨摩地域の標高1,000m前後	
主な特徴	開張50～60mm。雄の翅表の地色は黄褐色で黄色斑は不鮮明、雌の地色は淡く、黄色斑が発達する。雄の前翅の形は細長く、雌は幅広く、丸みを帯びる。	
主な生息環境	山地の落葉広葉樹周辺の草地、低山帯では湿地を交えた樹林。火山草原のふもとに発達した樹林、疎林、溪谷沿いなど。	



【食草】

イネ科



ヤマカモジグサ

カヤツリグサ科



アブラガヤ

【蜜源】クヌギ・コナラ・ミズナラ・カシワ等の樹液



コナラ



ミズナラ

クモマツマキチョウ ハケ岳・南アルプス亜種

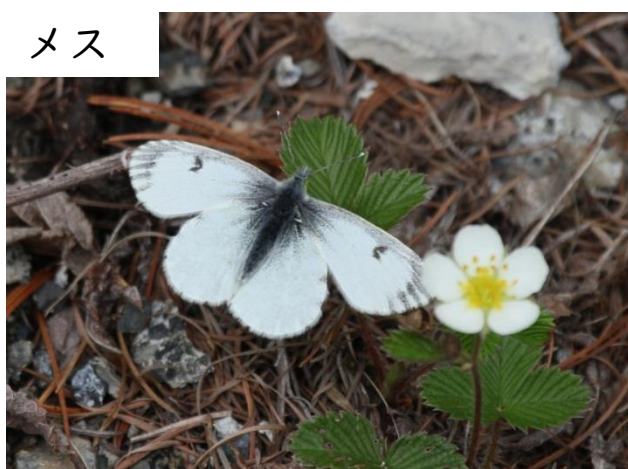
5

絶滅危惧ランク	国：準絶滅危惧	山梨県：絶滅危惧Ⅱ類
県内での主な分布 (かつての確認場所含む)	釜無川上流、南アルプス連山とその前衛山地、ハケ岳	
主な特徴	前翅長17~20mm。雄の前翅表の端は鮮やかな橙色、雌では白色。共に後翅裏面は緑褐色の唐草模様を配す。	
主な生息環境	亜高山帯の渓谷地帯。溪流沿いの河原や崩落地で、特に食草の多く見られるガレ場や崖地を好む。	

オス



メス



【食草】 ミヤマハタザオなどアブラナ科の主に果実部を食す



【蜜源】 ハタザオ属・スミレ類など



ヒロハコンロンソウ



ミヤマハタザオ

クロシジミ

絶滅危惧ランク	国：絶滅危惧 I B類	山梨県：絶滅危惧 I B類
県内での主な分布 (かつての確認場所含む)	北杜市大泉町、甲府市、旧鰍沢町、旧六郷町、早川町、南部町、大月市、都留市、山中湖村、富士河口湖町、富士吉田市	
主な特徴	開張雄32～35mm、雌35～40mm。翅表は暗褐色の地色で雄は弱く紫藍色を帯びる。裏面の地色は白色の強いものから褐色がかった灰白色まで変異が多い。	
主な生息環境	低山地から山地の、コナラやアカマツなどの混生する疎林から草地、ススキ草原など。植生遷移の途中にある人手の加わった不安定な里山的環境。	



オス表面



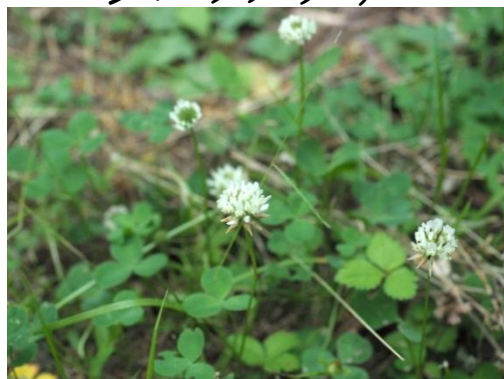
メス裏面

【食草】 幼虫は1～2令までアブラムシやキジラミの分泌物を吸汁。2令後期からクロオオアリの巢中に運ばれ口移して餌をもらい、そのまま幼虫越冬し、翌6月から7月頃蛹化する。年1回6月下旬から8月発生。

【蜜源】 ヒメジョオン



シロツメクサ



コヒョウモンモドキ

絶滅危惧ランク	国：絶滅危惧 I B類	山梨県：絶滅危惧 I A類
県内での主な分布 (かつての確認場所含む)	南アルプス前衛山系、鳳凰山系、秩父山系、ハケ岳、御坂山系	
主な特徴	開翅長30~40mm。豹紋模様を持つ。緩やかな飛び方で花から花へと移動する。日照に敏感で日が陰ると草間に静止する。	
主な生息環境	亜高山の自然草原。時に高標高の伐採跡地。	



【食草】クガイソウ



(越冬後はクガイソウ以外も食べて蛹になる)

オオバコ



【蜜源】ヒメジョオン



チダケサシ



コウリンカ



ゴマシジミ 関東・中部亜種

絶滅危惧ランク	国：絶滅危惧 I A類	山梨県：絶滅危惧 I A類
県内での主な分布 (かつての確認場所含む)	富士山北麓梨ヶ原・本栖高原	
主な特徴	前翅長18～24mm。裏面にゴマ状の黒斑がある。翅表は青色から黒色まで地理的変異が著しく、同じ地域でも変異がある。	
主な生息環境	ワレモコウの生えている日当たりの良い乾燥した草原。草刈、火入れなどの人為的働きによって保たれてきた場所。	



【食草】ワレモコウ（若～中齢幼虫まで、その後はシワクシケアリによって巣の中に運ばれ、その幼虫を食べる肉食に食性転換する）



【蜜源】ワレモコウ・ハギ類

スジグロチャバネセセリ 名義タイプ亜種

絶滅危惧ランク	国：準絶滅危惧	山梨県：絶滅危惧 I B類
県内での主な分布 (かつての確認場所含む)	ハケ岳、秩父山系、御坂山系、早川町、富士吉田市、忍野村	
主な特徴	開張25mm。明るい茶色。雌雄共に各種の花を訪れる。訪花以外の時間は、雄が雌を探して草本上を飛び回り、雌は葉上で休止していることが多い。	
主な生息環境	里山から山地帯の草地や明るい林縁部に広く生息。近くに沢や小河川があるようなやや湿り気を帯びた環境が好まれる。	



オス

【食草】 イネ科



ヤマカモジグサ



チダケサシ

カヤツリグサ科



アブラガヤ

【蜜源】 クガイソウ



ヒメジョオン



タカネキマダラセセリ 赤石山脈亜種

絶滅危惧ランク	国:絶滅危惧 I A類	山梨県:絶滅危惧 I A類
県内での主な分布 (かつての確認場所含む)	南アルプス仙丈ヶ岳周辺、北岳大樺沢	
主な特徴	開張30mm。黒色の地色に黄橙色の斑紋が散在する。卵から成虫になるのに足かけ3年を要する高山蝶。	
主な生息環境	標高2,000m前後のイワノガリヤスの生える日当たりの良い草地。仙丈ヶ岳周辺では、沢筋の急傾斜地で面積的には狭く、雪崩の影響を受けやすい環境で不安定な箇所が多い。	



【食草】 イワノガリヤス



【蜜源】

フウロソウ属

クガイソウ



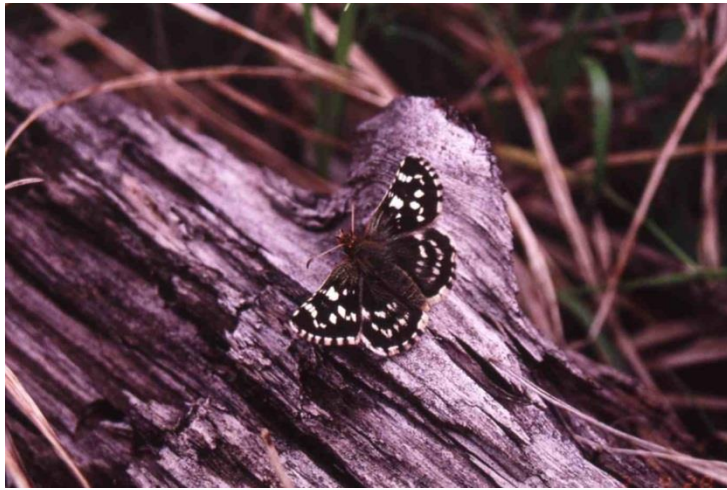
タカネグンナイフウロ



チャマダラセセリ

11

絶滅危惧ランク	国：絶滅危惧 I B類	山梨県：絶滅危惧 I A類
県内での主な分布 (かつての確認場所含む)	甲府盆地周辺、富士山麓	
主な特徴	開翅長25mm。雌雄の形態的差異はほとんど無し。春型は5月初旬～6月上旬、希に7～8月に夏型が見られる。	
主な生息環境	裸地のある草原環境。	



【食草】 バラ科 ミツバツチグリ、キジムシロなど



ミツバツチグリ

【蜜源】 シロバナノヘビイチゴ

ヒメジョオン

ミツバツチグリ
キジムシロ



ツマグロキチョウ

12

絶滅危惧ランク

国：絶滅危惧 I B類

山梨県：絶滅危惧 I A類

県内での主な分布
(かつての確認場所含む)

南部町を中心とした県南部

主な特徴

開張 夏型30mm、秋型35mm程。夏型雄は黄色、雌は全体に黒い鱗粉が荒く散布され、くすんだ淡黄色に見える。秋型は雌雄共濃黄色で大差無く前翅先端が尖る。

主な生息環境

河川敷、堤防、湿地の周辺や田畑の畦道など。



【食草】 カワラケツメイ

【蜜源】 カワラケツメイ

マメ科、スミレ類など



コマツナギ

ヒメシロチョウ

13

絶滅危惧ランク	国：絶滅危惧 I B類	山梨県：絶滅危惧 II類
県内での主な分布 (かつての確認場所含む)	富士山周辺、桂川沿いの郡内東部、秩父山系の山麓、茅ヶ岳、八ヶ岳山麓周辺	
主な特徴	開張約30mm。翅は全面白色を基調とし、前翅先端部に黒色の紋があり胴体はか細い。飛び方は緩慢で弱々しい。	
主な生息環境	山麓部の半自然草原。森林周辺や林道脇の明るい草地、防火帯の草地など。	



オス表面



オス裏面

【食草・蜜源】

ツルフジバカマ

【蜜源】 ツルフジバカマ・アザミ類

湿った地面で吸水行動も



ノアザミ

ホシチャバネセセリ

14

絶滅危惧ランク	国：絶滅危惧 I B類	山梨県：絶滅危惧 I B類
県内での主な分布 (かつての確認場所含む)	甲府盆地周辺、富士山北麓一帯	
主な特徴	日本産セセリチョウ科最小型種、開張約25mm。翅表面の地色は褐色味を帯びた黒色。前翅表には細かい白点列がある。越冬態は3齢幼虫。	
主な生息環境	低山地の林縁の草地、山地の疎林及び周辺草地。日当たりのよい場所が好まれる。	



【食草】 オオアブラスキ



【蜜源】

アザミ類



ノアザミ

ヒメジョオン



ミヤマシジミ

15

絶滅危惧ランク	国：絶滅危惧 I B類	山梨県：絶滅危惧 I B類
県内での主な分布 (かつての確認場所含む)	釜無川、笛吹川、富士川、桂川などの河川沿いとその上流部の開けた谷、ハヶ岳・富士山の火山草原など旧40市町村	
主な特徴	開張26～28mm。雄の翅表は濃水色、雌は茶褐色で青藍色の鱗粉が混ざることが多い。裏面は雄雌共に薄茶白色の地に黒と褐色の斑紋が散在する。	
主な生息環境	河川勾配約0.2%以下の礫の多い河川敷の中水位面から高水位面、それら河川につながる山裾の扇状地などの農耕地周辺等。	



【食草】 コマツナギの葉・花・実、数種のアリと共生

【蜜源】 コマツナギ



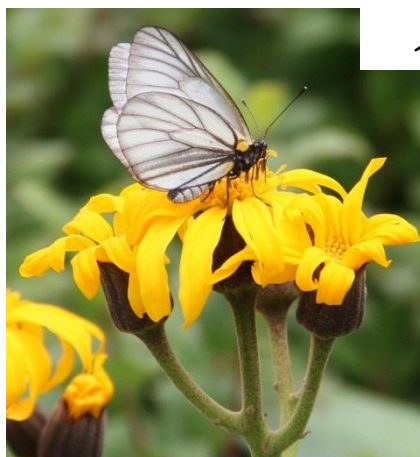
ミヤマシロチョウ

絶滅危惧ランク	国：絶滅危惧Ⅱ類	山梨県：絶滅危惧ⅠB類
県内での主な分布 (かつての確認場所含む)	南アルプス山系、ハケ岳山系	
主な特徴	開張60mm程。雄の表面は白色の地色。雌は羽化後時間が経つにつれ雄の求愛行動によって前翅の鱗粉がはがされ半透明で全体に黒ずんでいるものが多くなる。	
主な生息環境	標高1500-2000mの森林帯の外縁や沢筋のやや開けた場所。	

オス



メス



【食樹】 ヒロハヘビノボラズ



メギ



【蜜源】 ミヤマイボタ



アザミ類



クガイソウ



オオイチモンジ

17

絶滅危惧ランク

国：絶滅危惧Ⅱ類

山梨県：情報不足

県内での主な分布
(かつての確認場所含む)

ハケ岳南西麓、南アルプス山系の野呂川・早川・小武川などの源流域、瑞牆山麓、奥秩父

主な特徴

開張40～47mm。翅表は黒褐色の地に白斑と白帯を配す。溪畔や梢上を滑空飛翔する。

主な生息環境

標高1,000～1,500m位の亜高山帯の溪谷沿いにある食樹が混じる針広混交林周辺や河原、涸沢など。



オス



オス

【食樹】
ドロノキ



【蜜源】 ヤナギ類などの樹液、獣糞



オオチャバネセセリ

絶滅危惧ランク

国： ー

山梨県：準絶滅危惧

県内での主な分布
(かつての確認場所含む)

甘利山、茅ヶ岳、乙女高原、湯の沢峠、
本栖高原、甲府盆地周辺の里地・低山地

主な特徴

開張約35mm。茶褐色の翅に銀色の斑紋
が見られる。飛び方はセセリチョウ科の
中では緩やかな方で葉上によくとまる。

主な生息環境

里地の雑木林周辺や山地、高原などの半
自然草原や登山道・林道脇のソデ群落の
草地、ササ原など。比較的明るく開放的
な場所。



【食草】 イネ科(イネ、ススキ等) タケ科(アズマネザサ、メダケ、クマザサ等)



ススキ



アズマネザサ

【蜜源】 アザミ類



ノアザミ

ヒメジョオン



オオムラサキ

絶滅危惧ランク	国：準絶滅危惧	山梨県：要注目種
県内での主な分布 (かつての確認場所含む)	旧長坂町、旧須玉町、旧明野村、甲府盆地周辺各地、旧六郷町、早川町、旧下部町、大月市、上野原市など	
主な特徴	開張約100mmの大型種。雄の翅表面は鮮やかな紫色の光沢がある。飛翔は敏速で、雑木林の中を滑空する。	
主な生息環境	二次林や人家近くの雑木林。山間の民家の庭や社寺の境内でも見かける。	



オス



オス裏面



メス

【食樹】

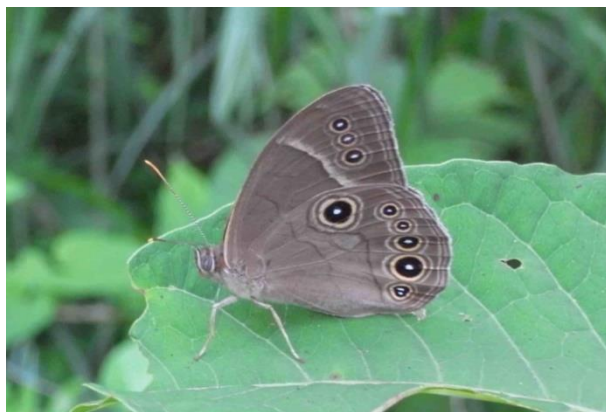
エノキ



【蜜源】 クヌギ・ハルニレ・カシワ等の樹液→



絶滅危惧ランク	国：絶滅危惧 I B類	山梨県：絶滅危惧 I B類
県内での主な分布 (かつての確認場所含む)	旧敷島町、旧市川大門町、旧下部町	
主な特徴	開張50～55mm。褐色の地色に複数の眼状紋が目立つ。雄は午前と夕方近くに林縁でナワバリを持つ。	
主な生息環境	管理された薪炭林とその林縁部にナワバリが形成できるススキなどの草地や空間を持つ里山的な環境。林内と林縁部の2つの環境の組み合わせを必要とする。	



【食草】 イネ科ススキ類



ススキ

カヤツリグサ科



アブラガヤ

【蜜源】 コナラ・クヌギ・フサザクラなどの樹液



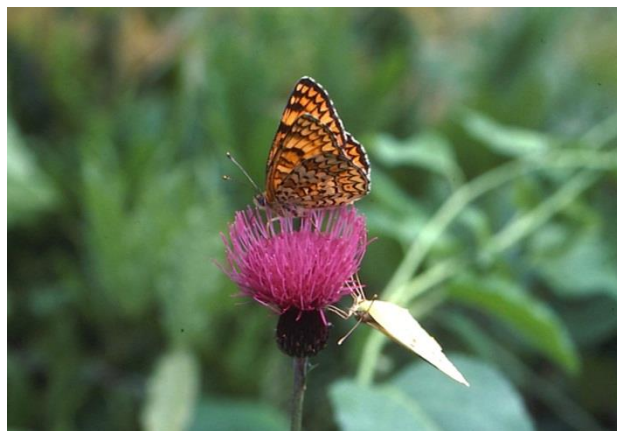
コナラ



ヒョウモンモドキ

21

絶滅危惧ランク	国：絶滅危惧 I A類	山梨県：絶滅
県内での主な分布 (かつての確認場所含む)	旧小淵沢町、旧長坂町、旧明野村、韮崎市、旧双葉町、旧敷島町、甲府市、旧春日居町、山梨市、旧市川大門町、旧六郷町、旧下部町、富士吉田市、都留市、大月市	
主な特徴	開張約50mm。翅表はオレンジ色を基調として、黒斑が翅の中央部から波模様を描く。吸水行動も見られる。	
主な生息環境	標高500~1,000mにかけての低山帯。雑木林などの中の湿性草地。	



【食草】

タムラソウ（アザミ類）



【蜜源】

アザミ類

シモツケ

コウリンカ



ノアザミ

